

光と影

作詞・作曲／小堀力

指先かすめてく風が 君の影を運んできた
そっと触れるように さらうように この手をすり抜けてく

並んで歩いてた日々は 時間の中で色褪せていた
揺れる街並みに 流されぬように 今僕は足を止めた

帳が降りて 明かりが灯る頃
君と交わしたさよならは この胸に褪せないまま

光と影 揺れながら 街の中に溶けてゆくよ
遠ざかる面影に 背を向けて歩いてゆこう
ありふれた 君の明日を 願う夜に溢れだす
輝きを 君に見せたい

隙間だらけのこの指を 埋めるのはそう楽じゃないよ
その温もりを 捜しながら そっと耳を澄ましてみる

静かな街に 乾いた靴音が
鳴らすハーモニー奏でるには 今の僕じゃ難しくくて

刻むリズム 揺れながら 街の中に溶けてゆくよ
何もかも脱ぎ捨てて 君の胸で眠りたい
朝焼けに 照れながら 紡ぐ言葉隠して
輝くから…

光と影 揺れながら 街の中に溶けてゆくよ
遠ざかる面影に 背を向けて歩いてゆこう
ありふれた 君の明日を 願う夜に溢れだす
この歌を 今届けたい